

2016年（平成28年） 7月22日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

7/7～7/13のNYMEX・WTIは、44ドル後半から46ドル後半の狭い範囲で、連日反落・反騰を繰り返す一週間となった。

7月14日は、前日の大幅安の反動で買い戻しが入り反発した。ただ、前日の米国エネルギー情報局(EIA)在庫週報の製品在庫増加の報告、国際エネルギー機関(IEA)月報の過剰在庫の指摘等、需給緩和に対する警戒感は根強く、上値は重かった。8月限の終値は、前日比0.93ドル高の45.68ドルとなった。

週末15日は、午後発表のペーカー・ヒューズ社の米国掘削リグ数が3週間連続増加(6基)したものの伸びは鈍化したこと、米中両国の経済指標が堅調であったこと等を背景に続伸した。8月限は前日比0.27ドル高の45.95ドルで終了した。

週明け18日は、トルコのクーデター未遂を受けて、中東地域の混乱懸念の後退から、利食い売り等も出て反落した。また、今年の米国実質GDP伸び率の下方修正、6月の中国原油輸入量の減少、民間情報会社によるクッシングの在庫増加等の報告も値下がり要因となった。8月限の終値は、前週末比0.71ドル安の45.24ドルとなった。

19日は、対ユーロのドル高による原油の割高感、根強い供給過剰感等を背景に続落した。8月限の終値は、前日比0.59ドル安の44.65ドルだった。

20日は、EIAの週間統計で米国の原油在庫は減少、製品在庫はまずまずの水準だったことから反発した。この日納会となる8月限の終値は、前日比0.29ドル高の44.94ドルだった。

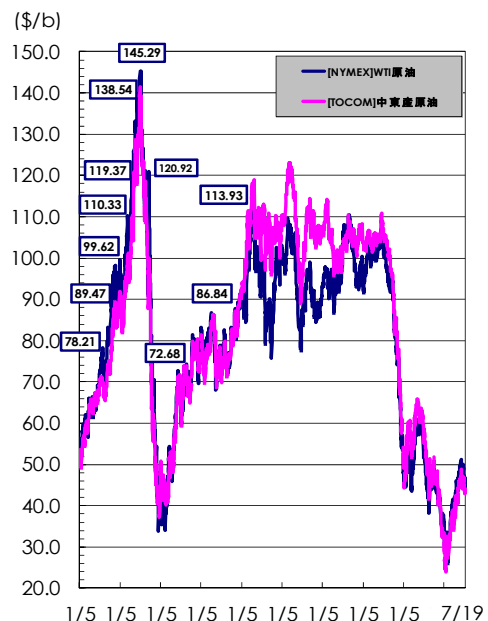
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週42.40～43.80ドルの狭い範囲で推移した。14日は42.80ドル、15日は42.90ドル、19日は42.60ドル、20日は42.80ドルと、前週に続き狭い範囲で推移した。

為替は、前週100.81～104.65円の範囲で参院選後大きく円安に進んだ。14日は104.15円、15日は105.64円、19日は105.98円、20日は106.03円とさらに円安で推移した。

主要元売会社の7月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.0円の値下げから、1.0円の値上げに分かれた。原油は値下がりだが、為替は円安で、原油コストは円安の影響から小幅な値上がりだった。

そのような中で、7月19日時点の小売価格は、ガソリンが0.8円値下がりの122.7円、軽油は0.6円値下がりの102.7円、灯油は0.1円値下がりの64.1円だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり、灯油は4カ月(18週)振りの値下がりだった。この週の原油コストは値下がり、元売りの卸価格は1.0円～3.0円の値下げだった。

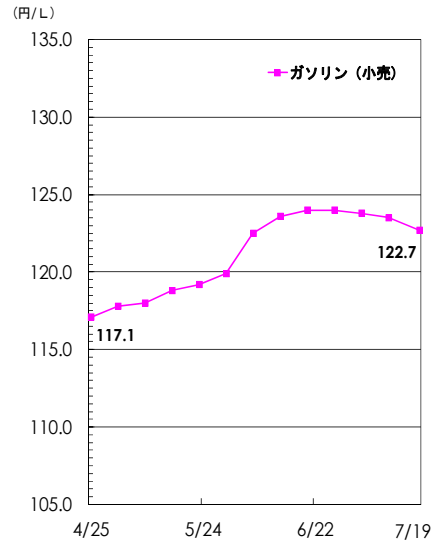
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/10 ~ 7/16	3,495 ▲14	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	82.3 ▲0.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/16	14,930 ▼-360	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/19	43.47 ▼-0.14	▼-12.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/18	45.24 ▲0.48	▼-4.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月中旬	46.52 ▲2.58	▼-17.58
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	32,035 ▲1,726	▼-17,540
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.48 ▲0.18	▲13.47
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/19	106.98 ▼-5.17	▲18.39



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/10 ~ 7/16	1,065 ▼-15 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,028 ▲18 ▼	▼ -	
	輸出	"	56 ▲26 ▼	▼ -	
	在庫	7/16	1,714 ▼-19 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/12 ~ 7/15	39.1 ▼-1.6 ▼	▼ -19.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/12 ~ 7/15	40.9 ▲0.2 ▼	▼ -17.7
		(TOCOM/中部)	7/15	40.5 ▲1.4 ▼	▼ -17.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/19	122.7 ▼-0.8 ▼	▼ -20.8	

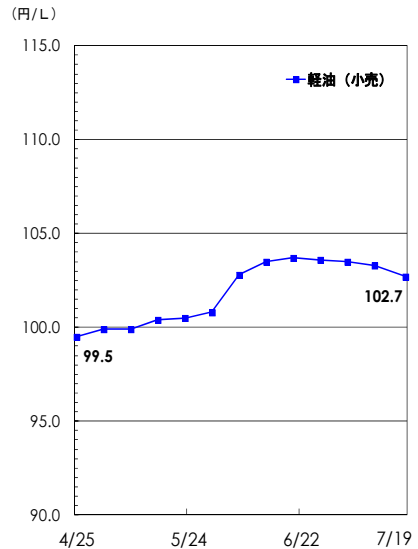
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

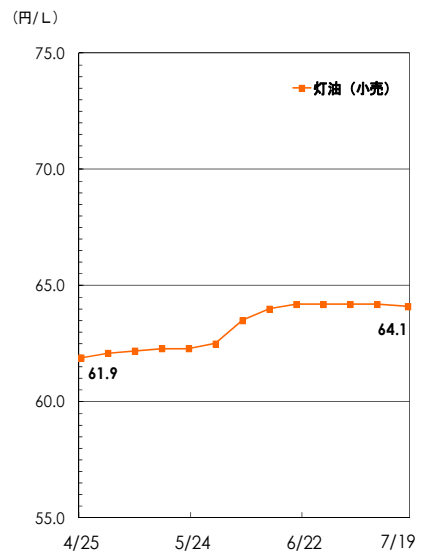
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/10 ~ 7/16	807 ▲88 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	619 ▼-32 ▼	▼ -	
	輸出	"	204 ▲116 ▲	▲ -	
	在庫	7/16	1,505 ▼-17 ▼	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/12 ~ 7/15	39.3 ▼-1.0 ▼	▼ -15.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/12 ~ 7/15	38.5 ▼-0.2 ▼	▼ -15.3
		(TOCOM/中部)	7/15	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/19	102.7 ▼-0.6 ▼	▼ -19.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/10 ~ 7/16	142 ▼-15 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	96 ▼-14 ▲	▲ -	
	輸出	"	0 ➡0 ➡	➡ -	
	在庫	7/16	2,003 ▲45 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/12 ~ 7/15	37.7 ▼-1.4 ▼	▼ -16.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/12 ~ 7/15	37.9 ▼-0.3 ▼	▼ -15.0
		(TOCOM/中部)	7/15	38.2 ▲0.4 ▼	▼ -13.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/19	64.1 ▼-0.1 ▼	▼ -21.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

20日のNYMEX市場のWTI原油は、弱含みで始まり、一時は2ヵ月振りの43.69ドルまで下落した。しかし、EIAの発表した週間統計で、米国の原油在庫については事前の予想をやや上回る230万バレルの減少、ガソリン在庫が横ばい予想に対して90万バレルの増加だったが、暖房油在庫が減少したことから相場には強材料となり反発した。

この日納会となる8月限の終値は、前日比0.29ドル高の1バレル44.94ドル、9月限の終値は、前日比0.30ドル高の1バレル45.75ドルだった。

EIAによると、7月18日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.3セント値下がりの1ガロン2.230ドル(62.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.2セント値下がりの2.402ドル(67.6円/ℓ)。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、7月10日～16日に休止したトッパー能力は、24.8万バレル/日と前週から横ばい。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は349.5万klと、前週に比べ1.4万kl増加。前年に対しては6.9万klの増加。トッパー稼働率は82.3%と前週に対して0.4ポイントの増加、前年に対しては3.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.4%減、ジェット/15.2%減、灯油/9.5%減、軽油/12.2%増、A重油/13.1%増、C重油/3.8%増。今週のC重油の輸入は5.7万kl(前週比0.8万kl減)。軽油の輸出は20.4万kl(前週比11.6万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、軽油が減少し、その他の油種で増加した。原油価格が値下がりし、小売価格も3週連続値下がりとなる中で、ガソリンの出荷は102.8万kl(対前週1.7%増)と2週振りに前週比で増加、3週振りに前年比で減少となり、3週連続で100万klを超えた。

ジェット7.8万kl(対前週26.9%減)、灯油9.6万kl(対前週12.2%減)、軽油61.9万kl(対前週4.9%減)、A重油19.3万

kl(対前週4.0%減)、C重油38.8万kl(対前週30.5%増)。

(単位:千KL)

	今週 (7/10 ~ 7/16)	前週 (7/3 ~ 7/9)	前週比	
ガソリン	1,028	1,010	▲ 18	(2%)
ジェット燃料	78	107	▼ -29	(-27%)
灯油	96	110	▼ -14	(-13%)
軽油	619	651	▼ -32	(-5%)
A重油	193	201	▼ -8	(-4%)
C重油	388	297	▲ 91	(31%)
合計	2,402	2,376	▲ 26	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月16日時点の在庫はジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは171.4万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては7.9万kl多い。

灯油は200.3万kl、前週差4.5万kl増。前年に対しては27.8万kl多い。

軽油は150.5万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては28.4万kl少ない。

A重油は75.9万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては0.9万kl少ない。

C重油は187.3万kl、前週差13.0万kl減。前年に対しては17.0万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (7/16)	前週 (7/9)	前週比	
ガソリン	1,714	1,733	▼ -19	(-1%)
ジェット燃料	1,167	1,078	▲ 89	(8%)
灯油	2,003	1,958	▲ 45	(2%)
軽油	1,505	1,522	▼ -17	(-1%)
A重油	759	769	▼ -10	(-1%)
C重油	1,873	2,003	▼ -130	(-6%)
合計	9,021	9,063	▼ -42	(-0.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月12日から7月15日までの原油コストは、原油価格は値下がりだったが、為替レートは円安でこれを相殺したことから、値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン92~93円台、軽油39円台、灯油37~38円台でほぼ軟調に推移した。海上スポット価格は、ガソリン95~96円台、軽油41~43円台、灯油36~37円台で灯油を除き一部値上がりをした。先物価格はガソリン93~94円台、軽油38~39円台、灯油37~38円台でほぼ横ばいだった。元売の卸価格は1.0円の値下がりから1.0円の値上がりと対応が分かれた。

EMGマーケティングは21日、23日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリンを2.0円、残る油種を1.0円値上げする旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

円安による原油コストの上昇を受け、製品スポット市況は、一部を除いて堅調となった。週間のガソリン販売量は、3週連続で100万klを超えた。

7月第4週(7月21日~7月27日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月12日~7月15日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.6円、灯油は1.4円、軽油は1.0円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.0円、軽油は0.6円の値上がり、灯油は0.6円の値下がり、先物価格は、ガソリンが0.2円の値上がり、灯油が0.3円、軽油が0.2円の値下がりだった。スポット製品価格は、円安の進行の影響を受け一部を除いて堅調に転じた。

7月第4週の大手元売の卸価格は、1.0円の値下がりから1.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (7/12~7/15)	前週 (7/5~7/11)	前週比
スポット価格	レギュラー	39.1	40.7	▼ -1.6
	灯油	37.7	39.1	▼ -1.4
	軽油	39.3	40.3	▼ -1.0
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (7/12~7/15)	前週 (7/5~7/11)	前週比
先物価格	レギュラー	40.9	40.7	▲ 0.2
	灯油	37.9	38.2	▼ -0.3
	軽油	38.5	38.7	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/12~7/15実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.6	▲ 0.2	▼ -0.7
灯油	▼ -1.4	▼ -0.3	▼ -0.9
軽油	▼ -1.0	▼ -0.2	▼ -0.6
A重油	▼ -1.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

7月19日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円値下りの122.7円、軽油は0.6円値下りの102.7円、灯油は0.1円値下りの64.1円だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり、灯油は4カ月(18週)振りの値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは2県、横ばいは3県、値下がり42都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(前週比1.4円安)の117.9円、次が秋田県(前週比1.3円安)の118.0円と並んでいる。最高値は長崎県(同0.5円安)の131.7円だった。都道府県別で最も

値上がりしたのは前週比0.7円高の神奈川県(120.5円)、最も値下がりしたのは前週比2.1円安の栃木県(120.5円)だった。

原油コストは値下がり、卸価格は全社値下げで、3週連続で小売価格は値下がりした。原油価格の値下がり円安が上回る形で、原油コストは小幅に値上がりしており、一部の元売りは卸価格を引き上げた。次週の小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (7/19)	前週 (7/11)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	122.7	123.5	▼ -0.8	08/8/4 185.1
	灯油	64.1	64.2	▼ -0.1	08/8/11 132.1
	軽油	102.7	103.3	▼ -0.6	08/8/4 167.4

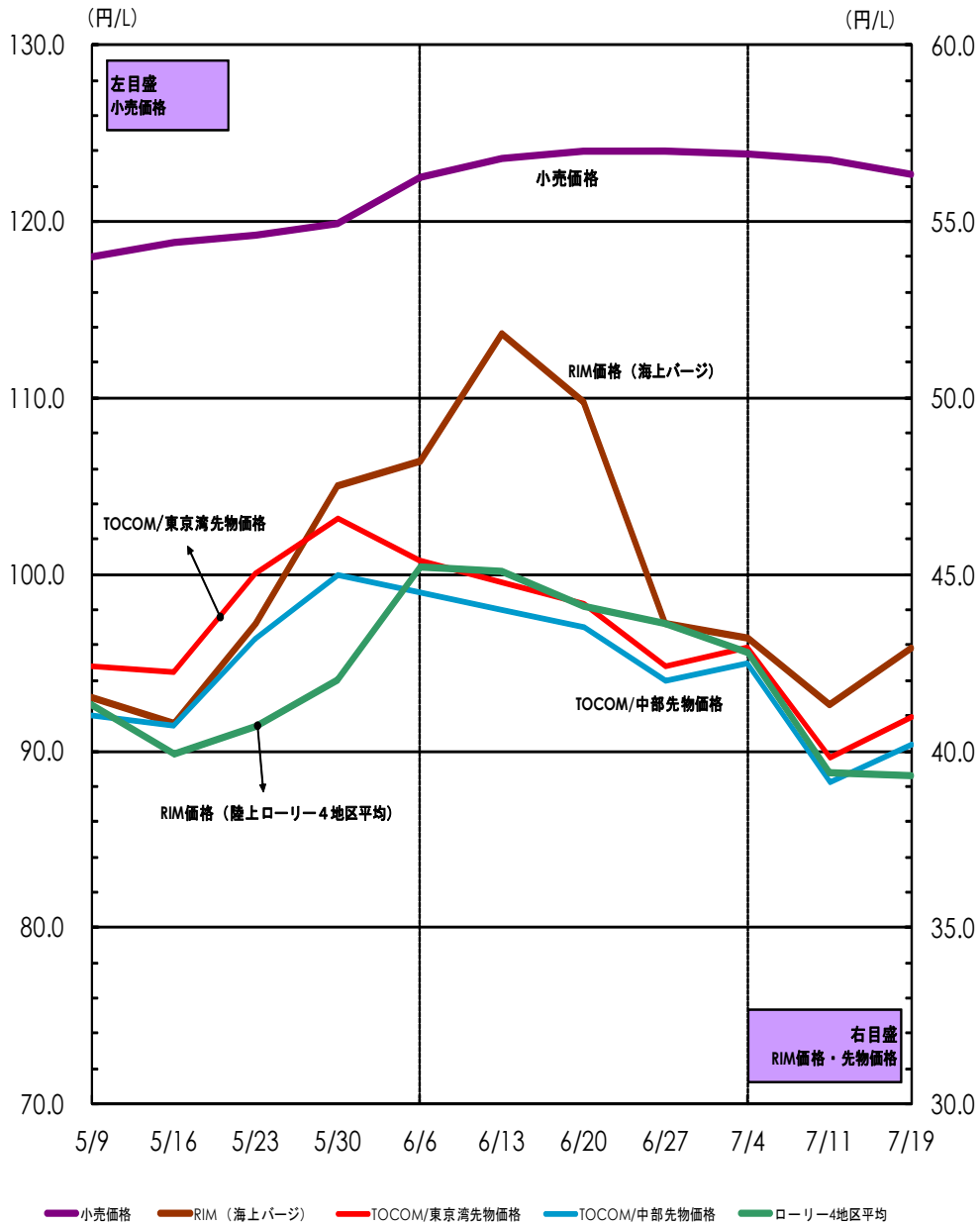
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/5/9 ~ 2016/7/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第17号)の公表は、7/29(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。